



集会やパレード
原発反対を訴え

福井で20人参加
第十回さよなら原発福井

県集会在七日、福井市のフェニックス・プラザなど県内三カ所で開催され、計二百五十人が参加した。集会後にはパレードを行い、原発反対を訴えた。写真。

集会は市民でつくる実行委員会が主催。小浜市明通寺の中島哲演任職があいさつし、「ふくしま復興共同センター」代表委員の齋藤富春さん、「核の中間貯蔵

施設はいらない！下北の会」代表の野坂庸子さんがメッセージを伝えた。

県内の住民らが関電大飯原発3、4号機の運転差し止めを求めた訴訟で弁護団長を務めた島田広弁護士「福井弁護士会」が大飯3、4号機設置変更許可を取り消した大阪地裁判決の意義」と題して講演。「今回の判決は、審査ルールを守れと訴える突破口になる。将来世代に核のごみを押しつけていいのか」と話した。

最後に共同代表で福井大名誉教授の山本富士夫さんが集会アピールを読み上げた。アピールでは▽福井県知事が原発再稼働を容認すると解釈される発言をしたことへの批判▽放射線被ばくの実態調査の要求▽四十年超の老朽原発の再稼働の阻止▽原発ゼロ法案の即時成立の要求▽事故時の避難防災対策の要求―を訴えた。

集会後にはフェニックス・プラザ前から福井地裁前まで約二キロをパレードで行進。参加者は「原発のない新しい福井へ！」「老朽原発の再稼働反対」などと書かれたプラカードを掲げた。
(藤共生)